新たな水産資源を活用した地域活性化事業に係る令和７年度効果検証について

・サクラマスに関する事業
・蓄養ウニに関する事業

令和８（2026）年10月16日
釜石はまゆりプロモーションコンソーシアム

目次

1　事業背景・概要

2　取組み内容及び事業予算

3　対象事業における重要業績評価指標（KPI）

4　令和７年度事業実績及び事業成果検証

事業背景

かつて鉄鋼業と水産業が基幹産業として地域経済を支え、人口は9万人までに発展した都市であったが、鉄鋼業の合理化や漁業200海里規制等の影響により人口が減少し、現在は約2万9,000人まで落ち込んでいる。中でも水産業は、三陸の良好な漁場と豊富な水産資源により水揚げが年間100億円を超える高収入高収益の業種であったが、近年では、地球温暖化の影響による海洋環境の変化に伴い、主力漁獲物の不漁や、漁業者の大きな収入源となるアワビ等が磯焼けにより生育不良や資源数が激減する等、漁業者の収入及び漁業協同組合等の経営に大きな影響を与えている。

事業概要

海洋環境に左右されず安定した生産量を見込める魚類養殖に着目し、産学官連携によるサクラマスの海面養殖試験研究を令和2年にスタートさせ、令和4年10月に事業化を達成し、安定した生産が行われている。磯焼け対策については、漁業者の間ではほとんど打つ手が無く、対策が取られていない中で、一部の漁業協同組合で磯焼けの原因の一つである駆除したウニを蓄養し、販売を試みている。サクラマスや蓄養ウニ等の新たな地域水産物を活用し、釜石市総合計画に掲げる魚のまち「かまいし」復活に向けた３つの施策を展開することで、地域水産業の中核を担う魚市場・漁業協同組合の体制強化や釜石市水産物の認知度向上及び漁獲物の高付加価値化による漁業所得の向上を図り、持続可能な水産業を目指す。

【魚のまち「かまいし」復活に向けた取組の推進】

〇釜石市魚市場を中心とした生産・流通体制の強化

魚市場を中心とした三陸有数の集出荷、加工拠点の再生を目指し、生産者と流通・販売事業者が連携を強化し、付加価値を高めながら消費につなげる体制を構築する。

〇漁協の生産体制の強化と漁業者の所得向上

地域漁業を持続可能な産業とするため、担い手の確保・育成による漁協の生産体制の確保を図り、漁獲物の付加価値の向上等により漁業者の所得向上が図られる。魚類や採介藻養殖の生産性の向上、アワビ等の資源回復等、市場性が高く、安定的な生産の確立に向け、つくり育てる漁業を推進する。

〇魚を感じられるまちづくりの推進

大学や水産技術センター等関係機関、地域漁業者等と連携した水産分野の 学術・技術・情報等の情報発信、釜石産水産物の品質やおいしさ等に関する情報を戦略的に情報発信する等、産地としての評価や信頼の向上、競争力が強化を図り、魚を感じられるまちづくりを目指す。

実施内容及び予算

【計画期間：令和７年度～令和９年度】

〇水産フォーラムの開催、大学との共同研究によるサクラマスの種苗開発、育成

漁業関係者の魚類養殖新規参入への意識醸成や開発、育成した種苗の提供により魚類養殖に新規参入しやすい環境づくりを進め、産地としての安定供給、生産量の増加、そして、釜石市魚市場の水揚量、水揚高の増加、強いては、関連する地域水産加工業者や流通業者等地域水産業への好影響をもたらす。

〇サクラマスフェア、サーモンツアーの実施、関係する広報物品の作成、協議会負担金

市内飲食店においてサクラマスをメインとするフェアや他地域のサーモン類養殖自治体と連携した サーモンツアー（三陸鉄道を利用し、飼育施設の見学、サーモンを研究している大学生との交流、各地の養殖サーモンを食すツアー）を通じ、新たな仲間づくりにつなげ、儲かる仕組みを構築する新たな協議会等民間組織を組織化し、地域全体でサクラマスの認知度向上、流通・消費拡大が図られる。

〇ウニの蓄養の産業化モデル構築

蓄養の実施、販売ルートの確保等産業化モデルの構築

事業項目及実施内容	R7	R8	R9
サクラマスに関する事業	11,330	10,500	11,330
・フォーラム開催経費	322	248	322
・サクラマスイベント経費	2,008	2,152	2,008
・種苗開発経費	8,000	8,000	8,000
・サーモンツアー経費	500	100	500
・サクラマス協議会負担金	500	0	500
ウニの蓄養に関する事業	1,000	1,000	2,000
・事業実施に係る補助金	1,000	1,000	1,000
・調査委託料			1,000

対象事業の重要業績評価指標（KPI）

KPI項目		開始前数値	計画		
			R7	R8	R9
KPI①	釜石市魚市場水揚高	1,445百万円	+12百万円 （1,457百万円）	+16百万円 （1,473百万円）	+16百万円 （1,489百万円）
KPI②	漁業所得金額	668千円	+88千円 （770千円）	+95千円 （777千円）	+105千円 （787千円）
KPI③	養殖サクラマス水揚量	145 t	+15 t （160 t ）	+20 t （180 t ）	+20 t （200 t ）
KPI④	釜石産サクラマス取扱事業者数	8件	+2件 （10件）	+2件 （12件）	+2件 （14件）
KPI⑤	蓄養ウニ販売個数	1,000個	+1,000個 （2,000個）	+1,000個 （3,000個）	+1,000個 （4,000個）
KPI⑥	蓄養ウニ取扱事業者数	1件	0 （1件）	+5件 （6件）	+10件 （11件）

令和７年度事業実績

事業項目及実施内容		R7 計画	R7 実績	R7 計画比
サクラマスに関する事業	・フォーラム開催経費	322	34	△288
	・サクラマスイベント経費	2,008	1,528	△480
	・種苗開発経費	8,000	8,000	0
	・サーモンツアー経費	500	124	△376
	・サクラマス協議会負担金	500	0	△500
ウニの蓄養に関する事業	・事業実施に係る補助金	1,000	0	△1,000
計		12,330	9,686	△2,644

KPI項目		開始前数値	R7 計画	R7 実績	R7 計画比
KPI①	釜石市魚市場水揚高	1,445百万円	+12百万円 (1,457百万円)	+670百万円 (2,115百万円)	+658百万円
KPI②	漁業所得金額	682千円	+88千円 (770千円)	+129千円 (811千円)	+41千円
KPI③	養殖サクラマス水揚量	145 t	+15 t (160 t)	+111 t (256 t)	+96t
KPI④	釜石産サクラマス取扱事業者数	8件	+2件 (10件)	+２件 (8件)	±0件
KPI⑤	蓄養ウニ販売個数	1,000個	+1,000個 (2,000個)	0個	△1,000個
KPI⑥	蓄養ウニ取扱事業者数	1件	0件	0件	–

令和７年度事業成果検証①

事業実施に係る成果検証

〇水産フォーラムの開催、大学との共同研究によるサクラマスの種苗開発、育成

・フォーラム来場者49名。管内のさけ・ますふ化場を利用して行われているベニザケやムール貝の養殖、海洋環境の現状や環境変化が及ぼす影響などをテーマとした講演を行った。来場者へのアンケートでは、回答者の7割がテーマに興味を持ち来場したと答えており、サーモンに限らず、養殖業をテーマとしたことで興味を引くことができた。

・種苗共同研究では、唐丹町漁協が、サケの不漁により稼働率が低下しているふ化場を活用してサクラマスの種苗研究をしている岩手大学と協力し、種苗育成の試験研究を開始するなど、サクラマスによる地域活性化に向けた動きが見られた。

〇サクラマスフェア、サーモンツアーの実施、関係する広報物品の作成、協議会負担金

・8月の1か月間、市内飲食店等においてサクラマスの料理を提供するフェアやサーモン類養殖を行う近隣自治体と連携した ツアーを実施し、サクラマスの認知度向上、流通・消費拡大を図った。

・地産地消の促進を目的として開発され、フェア参加事業者が販売している弁当にサクラマスが使用されるなど、地元の食材としての認知されてきている。

〇ウニの蓄養の産業化モデル構築

・想定していた唐丹湾内のウニの生息数が少なかったため、実施が困難な状況となり、断念した。

・先行事例のある大槌町等との意見交換等取組前の情報収集等の準備や採捕する海域や方法の再考、他団体等の協力を得る必要もあるのではないか。

令和７年度事業成果検証②

KPIに係る成果検証

○KPI①釜石市魚市場水揚高、③養殖サクラマス水揚量

・サクラマス生産事業者の地域水産業活性化への思いや安定した技術により水揚げは約256ｔ、約２億円と魚市場の水揚げに大きく貢献した。そして、生簀２基の増設や新たな区画での海面養殖の実施に向けて地域漁業者や関係団体と調整を始めるなど更なる増産に向けた取り組みが進められている。
・唐丹町漁協が、岩手大学と協力し、サケの不漁により稼働率が低下しているふ化場を活用して種苗育成試験研究を開始するなど、サクラマスによる地域活性化に向けた動きが見られた。

○KPI②漁業所得金額

・海水温の上昇等による養殖物のへい死等により生産量が低下したものの、需要数が上回っていることによる価格の上昇により、一定の所得上昇が図られた。

○KPI④釜石産サクラマス取扱事業者数

・R6.3月に取扱いをしていた2店舗が事業者側の事情により閉店してしまったが、フェア参加２事業者が引き続きサクラマス使用したメニューを定着させるなど、フェアの開催効果が見られた。
・年度末に設立したサクラマス協議会の構成団体とともに飲食店や鮮魚店が取り扱いやすい仕組みを構築し、次年度に向けて市内事業者にアプローチしていく。

○KPI⑤蓄養ウニ販売個数、⑥蓄養ウニ取扱事業者数

・ウニの生息数の減少等による数量確保が困難であったことにより、事業を実施することができなかった。
・漁協によると海藻の繁茂状況やウニの生息数も回復傾向にあるということであり、岩手大学に今年度着任したナマコやウニ等の棘皮動物を専門とする研究者へのサポート依頼、積極的に磯焼け対策としてウニの駆除に取り組む大槌町との意見交換の場を設定するなど新たな協力体制を構築しながら進めたい。また、専用生簀での蓄養を計画しているが、湾内の一定区域にウニを集約し、自然と近い環境で育てるなど育成方法についても検討したい。
・取り扱い事業者については、ウニを使用したイベント等を行っているかまいしDMCの協力を得て参加者の意見の吸い上げ及びニーズ調査を実施していきたい。

成果検証

釜石はまゆりサクラマスプロモーションコンソーシアム会議で成果検証を実施

- **日　　時：**令和８年10月16日(金)
- **場　　所：**釜石市役所　水産農林課内
- **検証方法：**事務局成果検証内容を委員に事前に送付し、意見等を集約
- **構成団体：**岩手県立大学教授、岩手大学三陸水産研究センター、株式会社かまいしDMC、釜石ヒカリフーズ株式会社、公益財団法人釜石・大槌地域産業育成センター、岩手県沿岸広域振興局水産部、釜石市(事務局)

・意見等

●事業実施成果検証について

(1)サクラマスに関する事業について

・型の良いものを活締めや血抜きなどによる高付加価値を付けた商品化や缶詰、冷凍食品等の開発にも取り組んでみてはどうか。

・イクラの採取と加工販売を行ってはどうか。

・内水面において育成する種苗の安定確保への取組も行ってはどうか。

・展示会、商談会などへの出展も有効ではないか。

(2)ウニの畜養に関する事業について

・漁港泊地を利用しての労力軽減や採算性等検証も有意義だと思う。ただし、漁港泊地は第１種共同漁業権漁場であるため、漁業者との調整も必要となる。

●KPI成果検証について

・特になし

●その他

(2)ウニの畜養に関する事業について

・「畜養」ではなく、「蓄養」と表現するのが好ましいと思う。